

平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査について

（本調査は、全国悉皆調査で第 6 学年児童を対象に 4 月に実施されたもの）

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 目的に応じて、本や文章全体のあらましを見渡して効果的に読む力が身に付いている。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問力が身に付いている。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。

【算 数】

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする力が身に付いている。
- 目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす力が身に付いている。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する力に課題がある。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 困難なことに対しても失敗を恐れずに挑戦しようとする意欲が高い。
- 学校の決まりを守り規則を尊重しようとする態度が身に付いている。
- 自尊感情を十分にもちきれず自分の良さを認めることに課題がある。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・算数科の重点単元における少人数指導の実施
- ・基礎学力定着のための指導時間「すくすくタイム」の実施
- ・1 時間の授業に交流活動や「学び合い」を位置付けた授業改善の実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・学力向上コーディネーターを中心とし、自分の考えを明確にしたり思考を整理したりするためのノート作り等の共通理解を図る取組を行う。
- ・書く力を付けるため、毎時間自分の考えを書く時間の確保を行う。

(2) 児童（生徒）質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・挨拶が上手な子どもへの評価（挨拶カードの配付）
- ・学校便り等での子どものよさや頑張りを価値付けた情報の発信

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・読書に興味をもち、多様な価値観にふれあわせたり知識を身につけさせたりするために朝の活動の時間における読書タイムの確実な実施
- ・家庭学習の習慣化を確実に図るため、P T A と連携した取組を行う。